（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和8年　2月　1日		～	令和8年　2月　20日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）		（回答者数）23	23
○従業者評価実施期間	令和8年　2月　1日		～	令和8年　2月　20日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）		（回答者数）5	4
○訪問先施設評価実施期間	令和8年　2月　1日		～	令和8年　2月　20日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）		（回答数）23	23
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　2月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援希望者のニーズや希望、置かれている環境を十分に吟味した上で様々な多職種（医師・看護師・保育士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師・管理栄養士・児童指導員）が連携を図りながら丁寧に支援を実施している。	訪問支援後は、担当医含め各職種が専門的な視点で評価を行い、今後の発達支援・家族支援・地域支援の方向性について検討し、御家族にも明確にフィードバックを実施している。	今後とも、担当者間での情報共有を徹底し、方向性を明確にした支援を行っていく。
2	訪問支援員は食歴が長い職員が多く勤務している為、様々なケースが抱える課題や方法について、柔軟かつ適切に対応出来る。	各専門職がセンター内での本来業務に支障のない範囲での訪問支援のスケジュール調整等を行いつつ、極力スピーディーに実働できるように検討している。	職員の異動等で引継ぎがなされないまま次の担当者の訪問支援でまた最初から、という事が起こらないようにするため、引継ぎはしっかり行い、不安感を抱かせる事のないよう取り組んでいく。
3	事前の行動観察や訪問先職員との情報交換を経た上で実際の訪問支援を実施している為、職員同士が共通認識を持つ事が出来ており、訪問先施設・北療育医療センター・ご家庭（お子様）の3点がより良い形で発達支援に臨めるような協力体制を構築している。	訪問先施設との信頼関係が何よりも重要であるので、納得していただけるよう丁寧な説明と負担にならないような対応を行うことを心掛けている。	お子様のこの先の人生を見据えた上での「今すべきこと」を見出しながら、現時点出来得る最大限の支援を行っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	担当職員が専任ではない為、日程調整や急遽の相談対応が出来ない。	保育所等訪問支援専門職員の配置が必要。	センターとして保育所等訪問支援事業についての方針を固め、専任の職員を配置する。
2	各訪問支援員もセンター内での業務を行いながらの訪問となっている為、保護者や訪問先施設の希望日時に合わせる事が難しく、ケースによってはかなりの機関お待たせする事も起きている。	本来であれば「今」困っている相談に対して、なかなか即動けない状況であり、各専門職の職員数の配置により滞ってしまっている。	各ケースが抱える課題や問題点、心の傷付きに対して、迅速に対応し、より良く生きていける様に支援を継続的に実施できる職員体制を検討していく。
3			